



精選日本史探究 新訂版

国立歴史民俗博物館 教授
大串 潤児

令和9年度から「精選日本史探究」は「新訂版」となります。今回の改訂でどのような「新しい教科書」となったのか、多くの特徴がありますので、改訂のポイントを交えつつご紹介します。

叙述面の特長

「精選日本史探究」の教科書としての特徴、その大枠は基本的に変わっていません。第1に、図版、史資料を多く用いています。時代の冒頭には「パノラマ」をおき、数万年のながい時間を人口・環境・生業で見通し、時代を通観する問いへと接続させる工夫をしています。第2に、地域史、災害史、ジェンダー史など、歴史学の最新の成果を盛り込んであります。特に各時代の男女関係（多様な性の関係）や、家族・社会集団など人々の関係の多様な姿を可能な限り書き込んであります。地域史では、東アジア史や世界史的な視点を重視するとともに、京城（ソウル）など現在の日本国内外を問わず個別の地域をとりあげました。生徒の暮らす地域社会と、ユーラシア大陸の歴史的世界との関係に気づくことができるよう配慮したので、生徒たちが列島の多様な姿や、「日本」という“まとまり”の成り立ちを探究することが期待されます。アイヌ史、琉球・沖縄史、植民地出身者や在日外国人の歴史なども、探究の重要な要素となると思います。

こうした本文叙述の基本的枠組みを維持しながら、学校現場からの意見・問題提起を受けとめながら、歴史学の最新の成果や効果的な史資料（図版）を盛り込みました。特に史資料（図版）では、1つの図版から複数の問いが引き出せるようなものを意識的に選んでいます（例えばp.191では普通選挙ポスターに替えて、図版「普選案早わかり」—新しい有権者像をカリカチュアライズされたもの—を選ぶなど）。

構成面での特長

まず、身近な素材から歴史への接近を促し（「動物」）、生徒の関心を惹きやすい4つのテーマ（「あそぶ」「はたらく」「つながる」「たたかう」）を全ての時代でとりあげて各時代の特徴を考えるとともに、その変化から通史的な認識（「探究」活動への手引き）へとつなげられるよう構成してあります。この部分は、4つのテーマを並列させていましたが、「見開き頁の読みもの」としても使えるよう2つずつのテーマにまとめ、その相互の連関に留意しながら歴史像を考えられるよう変更してあります（例えば「あそぶ」と「はたらく」の時代ごとの関係など）。

また、各単元の「まとめ」には「さまざまな人生 時代と社会を考える」（p.46 など）をおき、人々のライフサイクルを図版・史料と生徒たちの会話を用いて教材化したコンセプトは維持しつつ、より学習の手引きになるような構成としました。ここでは、「ライフサイクルからみると、〇〇ってどんな時代だったろう」という「問い」を意識しつつ、学習した諸事項を相互に関連させながら時代像を考察する」よう促すとともに、歴史のなかに生きる人びとの人生を、自らと重ね合わせつつ探究し、かつその探究を整理・総括することをねらいとする単元としました。歴史のなかのライフサイクルを考えることは、今を生きる若者にとっても身近で切実な“問い”につながるのではないのでしょうか。さらに、本書の終わりには「わたしたちの課題を探してみよう」（p.228-231）を設け、ここまでの歴史的思考の学習をもとに、よりよい社会のありかたを探究していく構成となっています。

さいごに

新訂版においても、この教科書は、「どうしてそんなことができるのか?」「何がわかっていないことなのか?」ということも意識して叙述を行なっています。生徒なりの歴史像を描くこと、そのためのガイドとなるような叙述を目指し続けたので、本書を用いて歴史を探究していただければ、執筆者一同望外の喜びです。